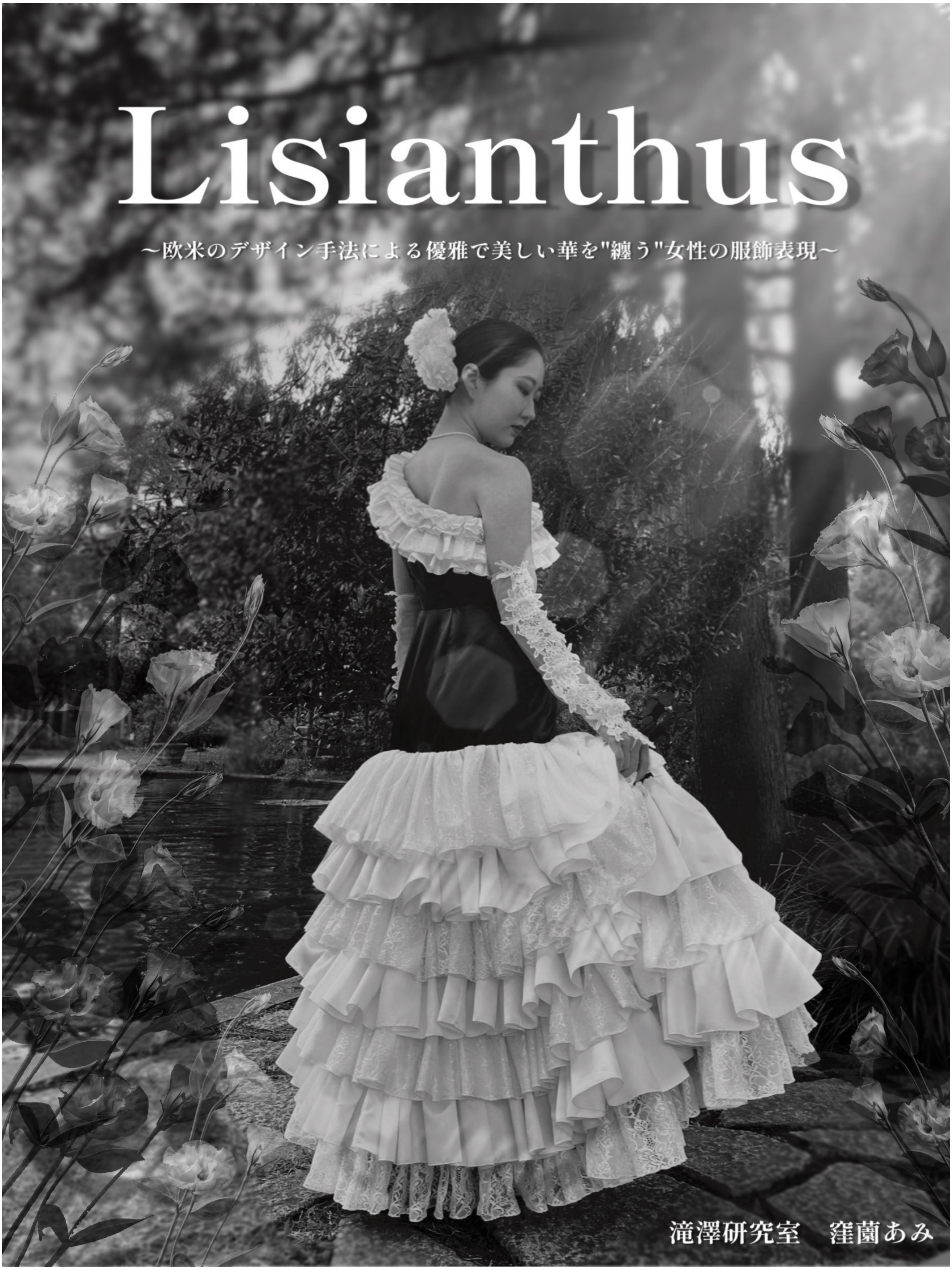


Lisianthus

〜欧米のデザイン手法による優雅で美しい華を"纏う"女性の服飾表現〜

滝澤研究室　窪薗あみ

1.Theme/Reserch

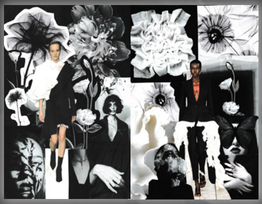
本制作のテーマは「Lisianthus」。

Lisianthus(リシアンサス)とはトルコキキョウの別名である。トルコキキョウの美しく優雅で何にも染まっていない純粋無垢な白さ、細くしなやかな茎から立派な八重咲きの花弁が美しく華麗に開き、一つ一つの花弁が幾重にも重り存在感を放つ姿に感銘を受けた。

リサーチ結果から、花言葉である「優雅」、花弁が幾重にもなって大きく咲く八重咲きの「華やかさ」、花の似合う美しく優雅な女性でありたいとの想いから「女性」の3つのキーワードを抽出し、本来のトルコキキョウの優雅な美しさを活かしつつ、シックでモードな雰囲気を掛け合わせる事でトルコキキョウの新たなイメージを服で表現することにした。

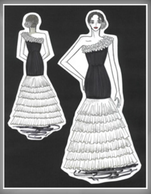
2.Mood boad

「優雅」「美しい」「華やか」の３つのキーワードを基に、女性がまるでトルコキキョウ纏っているかのような一体感ある雰囲気にまとめ、本制作のシックでモードな世界観を表現するムードボードを作成した。

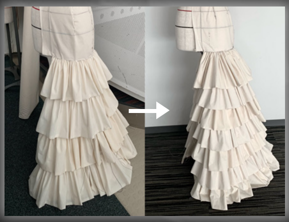

ムードボード

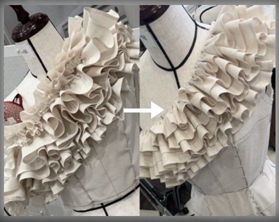
3.Design

ムードボードを基に100体のデザイン展開を行い、そしてコレクションラインを20体選定した。その中から本制作では、“花を纏う”事に焦点を当て、ワンショルダーラインとスカートに十分にギャザーを寄せたフリルを幾重にも体に巻きつくように重ねることによって八重咲きを表現している、テーマに最も合うデザインを制作することにした。


デザイン画

4.Pattern

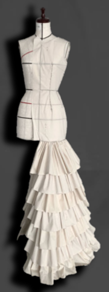

フリルを４段から７段に増やしたスカート

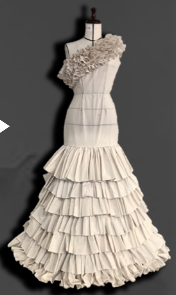

フリル段数を調整し、５段重ねに決定した様子

デザイン画を基にカッティングラインを設定し、立体裁断手法によりパターン設計を行った。トワルをボディに当てピンで留め、不要な布はカットしながらパターンを組んでいった。

マーメイドラインのスカートに付けるフリルは当初４段を予定していたが、７段に増やす事でよりボリューム感が増し、華やかな印象になった。また、トップス全体のバランスを見てフリルの段数を調整をし、どのフリル量、段数がおさまりが良いか試行錯誤を重ねた結果、一番収まりの良かった5段重ねにした。

半身パターン完成後、両身で仮縫いを行い補正を加え、マスターパターンの完成とした 。


半身のマスターパターン


完成したマスターパターン

5.Production

縫い仕付け

地の目線は白色のミシン糸一本取りで緩い一目落とし、出来上がり線はオレンジ色のミシン糸一本取りで二目落としですくい、印付けを行った。

仮縫い

本布で使用する60番のミシン糸を使用し、0.2〜0.3cmの針目で波縫いを行った。

試着補正

試着した結果、ドレスが入らなかった為、トップス、スカート、切り替え下スカートと分けて行い、全体的に補正を加える事とした。各パターンの脇を左右同じ分量ずつ出した。

本縫い

先ずダーツ、肩、脇を縫い合わせ、その後フリルをミシンで縫い付けた。次にトップス、スカートそれぞれを縫い合わせて合体させ、ドレスを組み立てた。

コンシールファスナー

縫い代処理後、右脇にコンシールファスナーを取り付けた。

裏布付け

見頃、スカート、切り替え下スカートの裏布を裁断し、ワンショルダーラインと裾をミシンで縫い繋げた後、アームホールと右脇の開きの部分をまつりで縫い付けた。

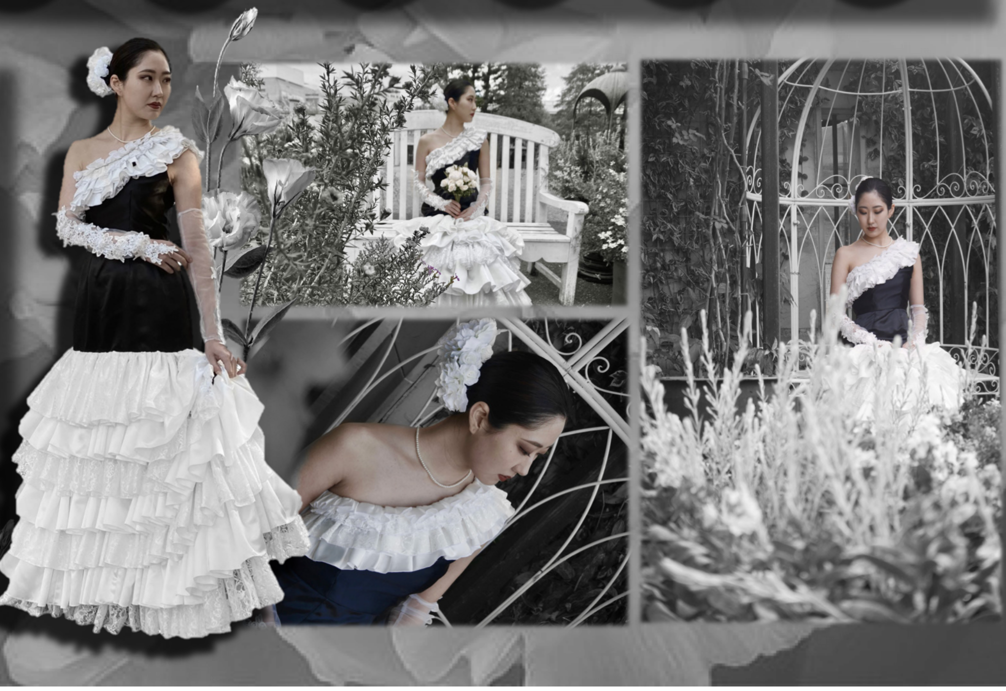
インサイドベルト

ウエストのサイズの合わせたグログランテープを裏布で包んだインサイドベルトをループで取り付けた。またインサイドベルトには体で食い込まないようにホックを外向きにつけた。

作品完成

全ての作業工程を終え、ドレスを完成させた 。

6.Conclusion

本制作ではデザインからその後の衣服制作の一連の作業を通して、一から作り上げる事の楽しさと難しさを学んだ。テーマの設定、リサーチ、そしてそれらに基づいたデザイン発想を行い、オートクチュールの技術を用いてパターン設計から本縫い、仕上げまで行った。その中で、オートクチュール技法には美しく仕立て上げる為の数々の工夫があることを実感した。アイロンがけや印付け、縫い代処理などはこれまでに習得してきた技術の何倍もの時間を要し、手間も根気も必要な作業だった。そのため、自己の技術力と知識力を把握し、周到な計画を立てることが大切であると痛感した。しかし膨大な時間と、一点一画も疎かにしない作業によって、納得のいく作品に仕立て上げることができた。結果として、4年間の集大成として、テーマに沿って自分自身表現したかった事を落とし込み、作品にできたことを嬉しく思う.